

# 中学校第2学年1組学級活動学習指導案

日時 平成24年10月18日(木)

指導者 2年担任 教諭 藪田 挙美

- 1 題材名 ケータイの使い方を考えよう(2) 適応と成長及び健康安全  
資料名『カメラ付携帯電話のマナー』 イ事故及び他者の個性の理解と尊重  
(出展:情報モラル研修教材2005 独立行政法人教員研修センター)

## 2 題材について

### (1) 題材のねらい

近年、携帯電話の所持率は高くなっており、内閣府の『2011青少年のインターネット利用環境実態調査報告書』によると、大人で94%、高校生では95%、中学生でも42%となっている。これから携帯電話を所持し、情報化社会の中で生きていく中学生に対して、情報モラルの実践力を身につけさせることが大切である。本校の生徒も携帯電話の所持率こそ低いものの、日常的に操作をしている生徒が多く(アンケート参照)、携帯電話の使用方法について考える必要がある。

くわえて、情報化社会の発展のスピードは速く、一つ一つのトラブルに対して、対策を教えていっても、すぐにそれが過去のものになってしまい、意味のないものになりかねない。そこで、大切になってくるのが、『トラブルへの対応の考え方』を身につけることである。具体的には自分の権利と他人の権利の存在に気付き、それらを尊重しようとする気持ちを育成することである。技術・家庭科だけでなく、道徳の時間でも取り扱うことによって生徒の情報モラルの実践力をさらに高めていきたい。

### (2) 生徒の実態

※ 省略

### (3) 資料について

今回の資料は、イラストを3枚使った簡易なものである。一見すると何が問題なのか分からない生徒がいるかもしれない。その中で質問を重ねることを通して、日常では罪の意識を感じることなく行っていることが、誰かの権利を奪っている可能性があることに気付くことができると思う。

また、資料を電子黒板で提示することで、生徒の関心や意欲を高め、課題を把握しやすくしている。今回の授業では、日常の中にある著作権法違反に気付く力を養わせたいので、資料の一部だけを使用している。

#### (4) 指導にあたって

- 導入では、事前のアンケート結果を見せることによって、携帯電話を所持していなくても、操作ができる割合が高く、この資料が身近な課題であることを意識させたい。
- 資料提示の場面では、電子黒板を用いて提示することで、資料に対する関心を高め、課題への理解が深まるようにしたい。また、効果的に提示することで資料理解の時間を短縮し、話し合い活動の時間を十分に確保したい。
- 資料を電子黒板で提示し、黒板にも同じイラストを貼ることで、生徒の思考の流れを確認できるようにしたい。また、電子黒板と黒板の両方を活かし、授業全体の流れが残るような板書を計画したい。
- 発表の場面では、ワークシートを書画カメラと電子黒板で拡大提示し、生徒がお互いの意見や考えを理解しやすくしたい。

#### ICT活用のポイント

##### ①教師の活用

- ・課題提示の場面で、電子黒板を用いて資料を提示することで、資料への理解を深める。

##### ②生徒の活用

- ・発表の際に電子黒板の拡大機能とペン入力機能を使用して、視覚的に表現できるので、自分の思いや考えを他の生徒に伝えやすくする。

### 3 指導計画

次	教科・領域	主な学習活動、内容
事前	朝学活	○携帯電話の操作や考え方に関するアンケートを実施。
1 (本時)	学活	○女子生徒の行動をもとに、自分の権利と相手の権利について考え、両者の権利を守るために必要な行動や考え方について話し合う。
1 事後	学活	○著作権や情報モラル等、携帯電話の正しい使い方について、ブレインストーミングを用いて、解決策を班別に検討し発表する。発表したものを掲示する。

### 4 本時の展開

- (1) 目標 日常の中にある違反（著作権法）に気付き、自他の権利を尊重しながら、生活に活かしていくための知識と心構えを身につける。



まとめ 10分	4 今後の生活について考えたことを発表する。  (C)使い方を間違えると他人に迷惑をかける。 気付かないうちに他人の権利を侵害しているかもしれない。	・「自他の権利の尊重」という視点から話し合ったことをもとに、今後の生活に活かしていける考え方や心構えを紹介する。 ・雑誌を買った人には、写真を撮って自分で活用できる権利があることも確認させたい。
------------	---	--